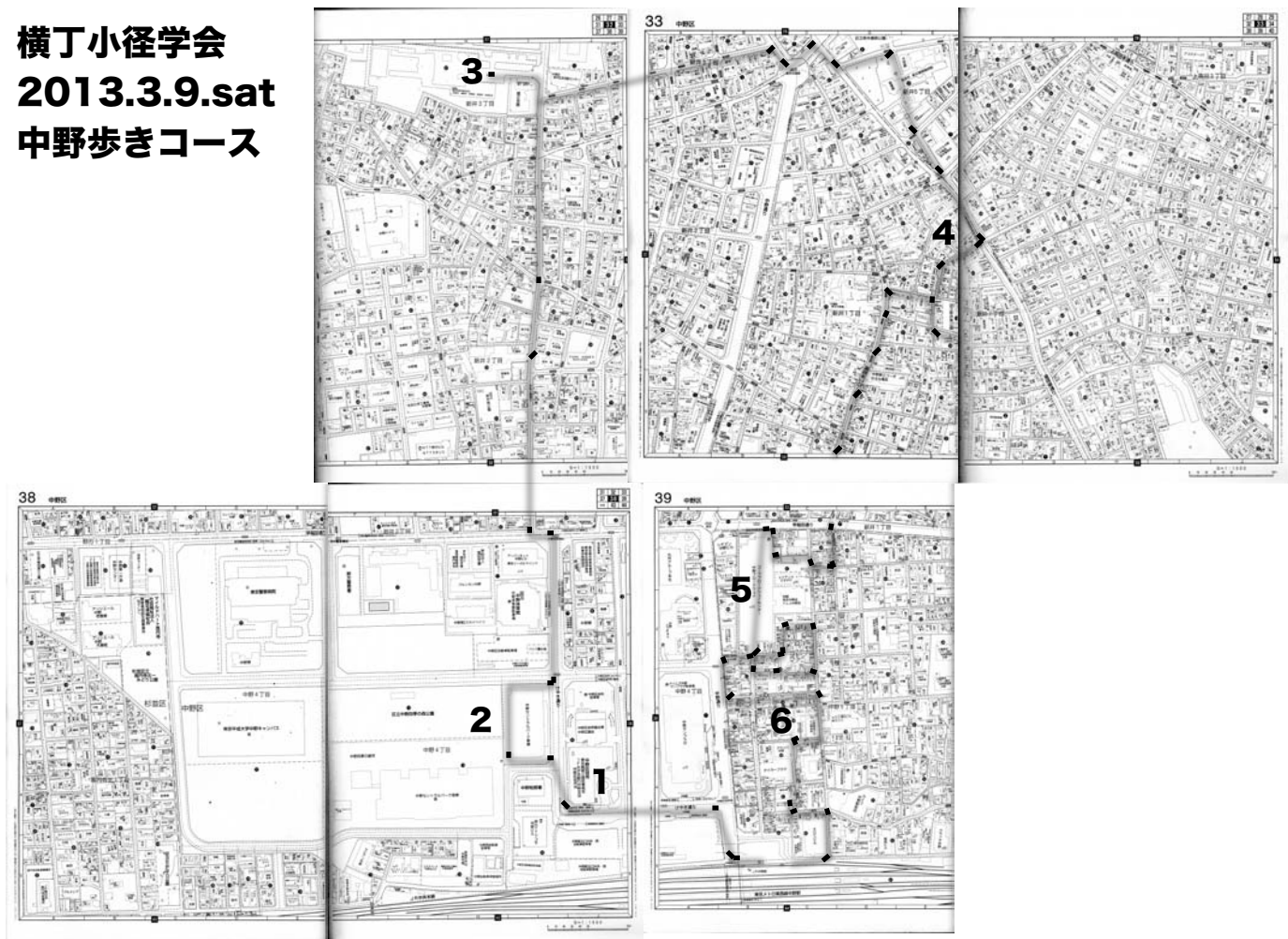


横丁小径学会
2013.3.9.sat
中野歩きコース



集合・出発 中野駅北口

1. 中野区役所 (犬・鳩)

犬屋敷のお囲いと犬の像、象も来た

レース鳩を屋上で飼育（5年連続日本一）、コトリのハセベと陸軍電信隊

2. 四季の森公園・中野セントラルパーク

かつての陸軍施設（陸軍鉄道大隊・陸軍電信隊・陸軍中野学校）、警察大学校

3. 平和の森公園

かつての豊多摩監獄、中の刑務所、正門（法務省矯正研究所敷地内）と塀の一部が残る
（「憲法擁護・非核都市の宣言」の碑、中野区平和資料展示室）

4. 新井薬師 (新井三業地)

北野神社、新井薬師、柳通り、銭湯、日本舞踊教室、阿部定事件

5. 中野ブロードウェイ

地下1階：アジアの市場的雰囲気、2～3階：おたく文化、なつかし漫画・おもちゃ、

4階：精神世界、青島都知事、ジュリー

6. サンモール商店街東側飲み屋街

四十五番街消える、ワールド会館、フジヤカメラ、など

中野駅北口 到着

中野駅

1889年（明治22年4月）甲武鉄道（中央線）の開通

当時の商業地は青梅街道中心で300年の歴史があった。

鉄道敷設当初の中野停車場は現在の駅から西100mの位置だった。

1902年（明治35年）

駅北側に陸軍電信隊本部を設ける、南口の桃園通りが駅前の繁華街だった。

1923年（大正12年）関東大震災後による人口郊外流出で、中野の人口増

1929年（昭和4年）11月1日現在の中野駅完成

商店街利用者増に対応しきれず、東に駅を移転、駅前広場をつくり、

南口広場は東西約130m、南北150m、深さ4m掘り下げ、中野通りを南に延長し鉄道の下をくぐらせた。

1.中野区役所

○犬の像

1695年（元禄8年）5代将軍徳川綱吉の「生類憐れみの令」による「お犬様」を保護養育するため、最初のお囲い「一の囲」がつくられ、「五の囲」まで拡大

最盛期には10万頭、30万頭のお犬様がいた。養育費用は年間10万両（現在の40億円）

令を犯した者は死罪、遠島、極刑に処せられた。誤って刑にふれた者は数万人にのぼった。

1709年（宝永6年）お囲い廃止 犬屋敷跡に桃の木を植え増殖し桃園になる。

○その他

1728年（享保13年）ベトナムからの象が将軍吉宗に献上される。

1741年（寛保元年）象が将軍の手にあまり、餌を運んでいた中野の百姓源助に払い下げ。

源助は象小屋を建てて人々に見物させていたが、象は翌年衰弱して死亡。

青梅街道沿いの宝泉寺に象の骨が残っている。

幕末 黒船騒ぎの煽りで、淀橋（青梅街道と神田川が交差する、中野と新宿の境）付近の粉引きの水車小屋に火薬製造が命じられ、爆発事故が起こる

2.四季の森公園・中野セントラルパーク

1897年(明治30)に陸軍鉄道大隊が創設

早稲田通りに並行して天沼の日大二高までが、幅30～50mの鉄道線路敷設と機関車運転訓練の演習場になった

1902年（明治35年）電信教導隊が併設され、鉄道大隊は鉄道隊と改称

1907年（明治40年）鉄道隊に気球隊が併設

1908年（明治41年）鉄道隊転営後、電信隊(電信教導隊が改称)と気球隊の施設

1919年（大正8年）気球隊が飛行機に編成替え

1926年（昭和元年）陸軍通信学校が開校

1939年（昭和14年）通信学校が転出、陸軍気象部が入ってくる

○伝書鳩

コトリのはせべ（東京新聞記事）

小学生のころ、中野坂上の祖父母宅に集まった親族の前で叔父が言った。「中野駅前に戦前、スパイの学校があった」。えたいの知れなさが子ども心に刻まれた。陸軍中野学校のことだ。

前身の軍事施設に軍用伝書バトを納めていた小鳥店の3代目長谷部喜好さん（82）は、戦時中に奇妙な体験をした。某日、中国人のなりをした男性が「かくまってくれ」と家に駆け込んできた。半日後には制服姿の2人組が訪れ、知らないと言い続けても押し入れに隠れる男性を見つけ出し、連れ帰った。訓練だったのか、それとも…。

<http://www.tokyo-np.co.jp/article/thatu/nozomu/CK2012100702000155.html>

陸軍電信隊本部

電信隊で飼育されていた伝書鳩「中野種」は戦場で活躍するよう訓練されていた。師団が動くたびにきゅう舎が動くので、その移動に応じて自分の帰るきゅう舎を間違いなく当てる。鳩にとって至難の技とのこと。

<http://yaplog.jp/komawari/archive/754> (アンティークショップ スピカ ブログ)

山階芳麿 私の履歴書

当時、新聞社は原稿の送稿によく伝書鳩を使っていたが、陸軍も通信の手段として重視し、ベルギーから輸入した鳩を使い、中野電信隊で鳩部隊を作っていた。鳥好きだった私はそこに入り込んで伝書鳩を分けてもらって研究していたし、小熊先生もベルギーで伝書鳩に興味を持って研究なさっていたのであった。

<http://www.yamashina.or.jp/hp/yomimono/rirekisho/rirekisho15.html> (公益財団法人 山階鳥類研究所)

電信隊の原さんぽ

<http://kaeru.moe-nifty.com/ankyō/2012/11/post-1768.html> (個人のブログ)

陸軍中野学校 (スパイ養成学校)

諜報謀略の科学科に対応するため陸軍が設置した要員養成所、当時「陸軍通信研究所」の看板で書類や通信、服装も背広に長髪でカムフラージュ、精神訓練中心。



→ 警察大学校 → 病院、商業施設、住宅、大学 (早稲田、帝京平成、明治)
(警察病院敷地内に石碑がある)

今も残っている「七三一部隊」

——— そして陸軍中野学校と登戸研究所 ———

一、「総力戦」が産んだ三点セット

「七三一部隊」「登戸研究所」「陸軍中野学校」は第一次大戦後の「国家総力戦」という体制が生んだものです。総力戦とは「あらゆる手段で戦争を」ということです。その中心となるものを「秘密戦」と言い、それは軍事的謀略はもちろん政治や経済の攪乱、病原菌の散布、要人・活動家の暗殺、環境破壊など、恐怖と欠乏におとし入れ内側から戦力を削ぐことでした。その「研究」の行き着くところは「残虐性」であり、人道主義は邪魔になって行ったのです。つまり七三一部隊、登戸研究所、中野学校は秘密戦の実行部隊として、また非人道と残虐性において三点セットであったのです。

秘密戦は平時も戦時も昼夜の区別もありません。指揮したのは陸軍参謀本部第二部八課 (謀略・諜報・宣伝) でした。当時の「欲しがりません勝つまでは」も小学生の応募作品であったなどまっかなウソで、参謀本部が考えた謀略だったのです。そして日本軍が前線で敗退するにつれ参謀本部は「陰謀史観」の目で国民を疑いはじめ、だんだんと「総スパイ」視され、その結果国民は、見ザル、言ワザル、聞カザルの三猿になって行きました。そして軍は敵と味方の見境いも失い狂暴化し逮捕・監禁が日常化して行ったのです。

「沖繩戦」で日本軍が同胞に向けた残虐がそのことを証明しています。

3.平和の森公園

○豊多摩監獄 (中野刑務所)

当時東洋一の規模を誇る

1910年 (明治43年) 3月 - 市ヶ谷監獄が手狭になったため起工 (設計後藤慶二)

1915年 (大正4年) 5月 - 竣工 (東京駅竣工1914年)

1916年 (大正5年) - 豊多摩監獄と改称

1921年（大正10年） - 豊多摩刑務所（英訳 Toyotama Prison）と改称
1923年（大正12年）9月 - 関東大震災により獄舎が倒壊
1931年（昭和6年） - 復旧工事完了
1945年（昭和20年）5月 - 東京大空襲により全焼，囚人は宮城刑務所へ送致
1946年（昭和21年）3月 - GHQ 接收 米陸軍刑務所(U.S. Eighth Army Stockade)として使用
1956年（昭和31年）9月 - 米陸軍刑務所閉鎖
1957年（昭和32年） - 接收解除・返還。中野刑務所（英訳 Nakano Prison）と改称
1983年（昭和58年）3月 - 閉鎖

収監者

大杉栄 - 1919年（大正8年）～1920年（大正9年）
荒畑寒村 - 1926年（大正15年）
亀井勝一郎 - 1928年（昭和3年）～1930年（昭和5年）「幽閉記」
小林多喜二 - 1930年（昭和5年）～1931年（昭和6年） 小説「独房」
三木清 - 1930年（昭和5年）、1945年（昭和20年）獄死
中野重治 - 1930年（昭和5年）、1932年（昭和7年）～1934年（昭和9年）
埴谷雄高 - 1932年（昭和7年）～1933年（昭和8年）、1941年（昭和16年）
河上肇 - 1933年（昭和8年）（途中で小菅へ。小菅で1937年（昭和12年）まで） 経済学者、
監獄で説教強盗と寝食を共にした
<http://madconnection.uohp.com/mt/archives/002282.html> （個人のブログ）
戸田城聖 - 1943年（昭和18年）～1945年（昭和20年）
藤本敏夫 - 1972年
壺井繁治（壺井栄の夫）
窪川鶴次郎（佐多稲子の夫）
徳田球一
野坂参三
村山知義（絵本作家）
金天海
李康勳

動画：光のなかに消えたレリーフ -中野刑務所- （中野区ホームページ）

<http://www.city.tokyo-nakano.lg.jp/dept/102500/d011420.html>

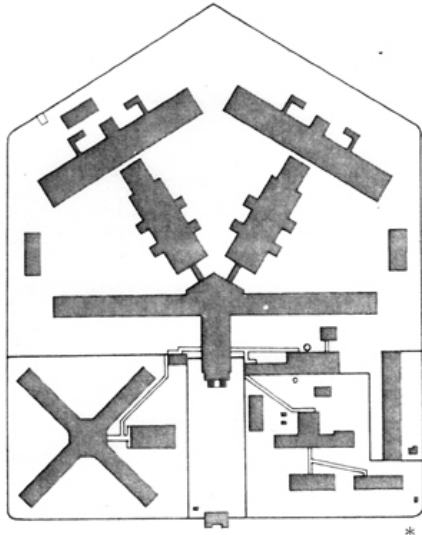
中野重治「多少の改良」

…私は被告人としていたのだから受刑者のことは知らない。また豊多摩にだけいたのだからよその刑務所のことは知らない。（しかし市ヶ谷刑務所のことは多少知 っている。）私の知っている範囲からいえば、豊多摩刑務所での被告人の取りあつかいは——以下すべて被告人のことだけ——名古屋、静岡、川越（支所？） などには及ばぬが、市ヶ谷よりはだいぶいい。東京が大東京になったとき、『朝日新聞』だつたかが「大東京案内」を出して、「豊多摩刑務所の設備は東洋一 だ」といつていた。だれにとつて東洋一なのか疑わしいとしても、看守たち自身よその刑務所より身びいきでなしにいいと言つていて、私もうなずけなくはない。悪いところはもつと悪いのだろう。

もちろん刑務所は警察・裁判所と解け合っている。両者から切りはなして刑務所の話だけをもちだすのでは十分正しくはない。しかし私は切りはなして書かねばならぬ。断つたとおりの私の書くのは一部分だ。

食事のこと

食いものについてはたくさんあるが割愛する。ただあまり鳥目にならぬよう、カリエスにならぬように願いたい。めしは33年秋以来ひどくわるくなつた。正月の御馳走の落ち目の目立つこと。しかしそれよりも、あの秋以来それまで朝めし についてきた沢庵の尻つぼがなくなつたことを言いたい。朝めしは麦めしと塩の味噌汁と沢庵の尻つぼが三切れくらいとで出来ていたが、その沢庵が消えた。私は刑務所の収入五百万円にたいして沢庵の尻つぼ代を勘定してみたが出なかつた。朝めしの沢庵の尻つぼを復活させてもらいたい。それから冬は熱い湯を飲める ようにしてもらいたい。それから飯やお菜の中から藁、砂、小石、ガラス、瀬戸物のかけら、木くずや竹のそげ、針金、ブリキ板を取りのけてもらいたい。私は 歯が悪くひどく悩まされた。あのブリキ板を噛んだときは——二分平方くらいのものだつたが、そして舌を噛んだことのある人なら、人間が知らずにどれほど強 く噛むものか知っているだろう。——私は悲しかつた。私は、藁や砂ならしかたがないというのではない。しかし針金やブリキはまつびらと言いたい。

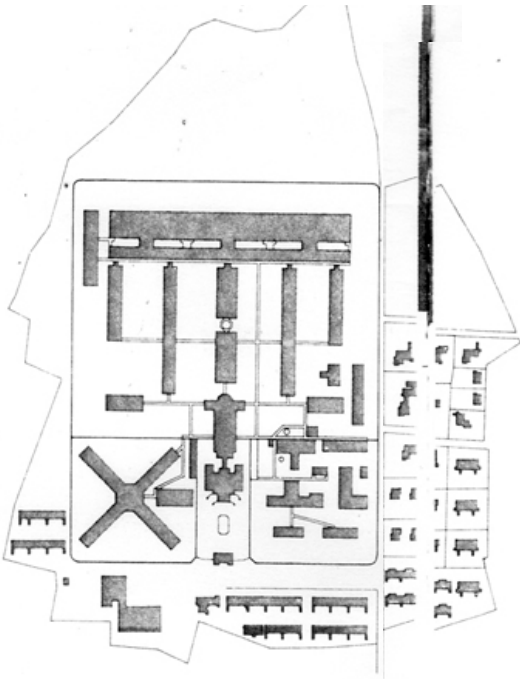


明治43年に市ヶ谷から移転した
新市谷監獄が、5か年の歳月を
かけて大正4年野方村に新築、落成。
豊多摩監獄としてスタートする。

- 敷地総坪数 40,641.8坪
(134,117.9㎡)
- 建物総坪数 8,452.1坪
(27,891.9㎡)
- 収容定員(男子) 1,400名

主な建物は、事務所、中央看守
所、分房監(2棟)、雑居監(2棟)、
特別監(4棟)、教誨堂、検身所(2
棟)、工場(4棟)、病監(3棟)、炊所、
倉庫、医務所、農作物置場、など。
そのまわりには赤レンガの高塙。表
門を入れば赤レンガの時計台。この
優美な建築群は、まだ緑の多い田
園の中に忽然として存在した。

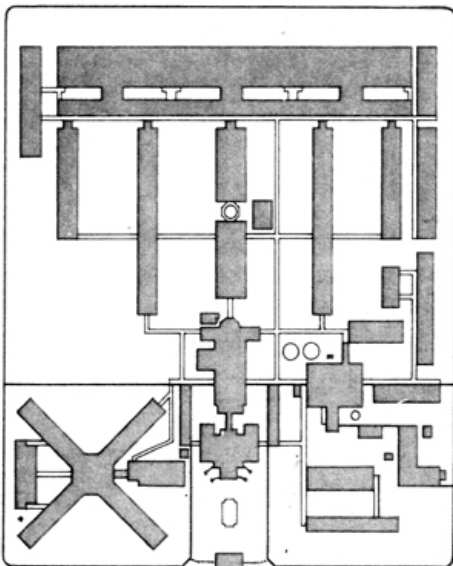
*



大正11年、豊多摩刑務所と名を
改めて、新制度による出発をした
が大震災で倒壊、亀裂。8年の歳
月をかけて、昭和6年修復完成。
その時、北側の放射雑居房を並
列型にして採光を配慮。2工場を
併せて1つの大工場とする。上部
が破壊していた時計台も階段つき
の当初の発想を生かして修理。そ
の前庭には、噴水池と緑を配し、
並列型雑居房の中庭ごとに同型の
小池をつくる。

しかし、その勇姿もまた新しい
昭和20年、空襲を受けて再び無残な
姿となる。工場は全て焼け落ち、医
務所、宿舎は壊滅状態となる。

*



昭和21年、豊多摩刑務所は、連
合軍により米軍拘禁所(スタック
ード)にするため接收される。以
後10年間、豊多摩刑務所は、終戦
直前に移転した浦和刑務支所跡で
過ごすことになる。

そして32年、接收が解かれ、返
還。名前も中野刑務所として再ス
タートをする。スタックード時代
の設備を撤去、病舎の建築、舎房
の改装、工場の新設など、おそい
戦後の修理にとりかかる。

それから20年、刑務所周辺は、
過密状態となり、田園の中にそび
えた優美な獄舎も、都市の渦の中
にうずもれた形となっていた。

58年3月廃庁。やがて防災公園
が誕生する。

*

(*印は出典・96ページ)

○中野区の「憲法擁護・非核都市の宣言」1982（昭和57）年8月

まちには こどもの笑顔があるひろばには若者の歌があるここには私たちのくらしがある
 海を越えたかなたにも同じ人間のくらしがある
 いま地球をおおう核兵器はあらゆるいのちの営みをこのしあわせを奪い去る
 私たちの憲法はくらしを守り自由を守り恒久の平和を誓う
 私たちはこの憲法を大切にし世界中の人びとと手をつなぎ核をもつすべての国に核兵器をすてよと訴える
 この区民の声を憲法擁護・非核都市 中野区の宣言とする

○平和資料展示室

中野区戦災焼失地域（南部）



4.新井薬師

○北野神社

16世紀 新井村の鎮守で“天満宮”と称する
 祭りの日に若者たちが持ち上げて競い合った「力石」がある

○新井三業地

1925年（大正14年）11月に新井三業（料亭・待合茶屋・芸者置屋）組合が設立

1927年（昭和2年）村山線（西武新宿線）開通 新井薬師駅

1936年（昭和11年）阿部定事件「料理屋吉田屋」（二・二六事件と同年）

薬師アイロード、柳通り

銭湯、花柳流日本舞踊稽古所

中野ゆかりの人

北一輝 住所 中野区桃園町四十番地（当時）

西田税 住所 杉並区高円寺四丁目五百三十七番地（当時）

丸谷才一『低空飛行』

中原中也 旧桃園町(現・中野三丁目)

小林秀雄

壺井栄

平林たい子

高村光太郎

小説など

太宰治 『ヴィヨンの妻』妻が中野の小料理屋で働いていた

有吉佐和子 『複合汚染』ブロードウェイのマンションに住む青島都知事を訪ねる

広津和郎『訓練されたる人情』関東大震災（大正12年）前後の新井の花柳界の様子

<http://www2u.biglobe.ne.jp/~itou/arai.htm>（個人のブログ）

井伏鱒二『茨窪風土記』

佐多稲子『夏の葉』

他

大詔奉戴記念碑（東京都中野区中野 3-19-2）

なかの写真資料館

http://www.city.tokyo-nakano.lg.jp/photo_museum/index.html（中野区ホームページ）